

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間のわが国経済は、原油価格・素材価格の高騰があったものの、情報技術分野の在庫調整がほぼ終わり、底堅い個人消費と好調な設備投資に支えられ回復を続けました。米国経済は、自然災害及びその後の原油価格の再騰がみられましたが、企業部門での在庫調整の一巡と家計部門での着実な雇用・所得環境の改善を受け、引続き堅調な成長を維持しました。欧州経済は、一部に弱さは残るものの総じて景気持ち直しの動きがみられ、緩やかな成長となりました。一方、中国経済は、政府の投資過熱抑制策により投資が沈静化したものの、輸出は堅調に拡大し、高成長を継続しました。東南アジア諸国の経済も米国景気の成長の持続と中国の高成長により堅調に推移しました。

当社は、かかる経営環境下で、収益力の向上を短期に実現するために、構造改革の断行、技術開発の強化、将来像を明確にした経営という当面の戦略課題を掲げ、収益基盤を一層強化するとともに、さらに徹底したコスト削減、高付加価値製品・新技術の開発、拡販活動に注力してまいりました。

この結果、売上高は155,739百万円と前中間連結会計期間に比べ8,988百万円(6.1%)の増収となり、営業利益も7,224百万円と1,756百万円(32.1%)の増益となりました。経常利益は5,322百万円と前中間連結会計期間に比べ1,437百万円(37.0%)の増益となり、中間純利益も2,421百万円と1,326百万円(121.1%)の増益となりました。

尚、当中間連結会計期間より固定資産の減損会計を導入した結果803百万円の特別損失を計上しております。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

機械加工品事業

機械加工品事業は、当社の主力製品であるボールベアリングの他に、主として航空機に使用されるロッドエンドベアリング、ハードディスク駆動装置(HDD)用ピボットアッセンブリー等のメカニカルパーツ、自動車及び航空機用のねじ、及び防衛関連製品であります。前中間連結会計期間に比べ、主力製品であるボールベアリングの売上は、自動車業界・情報通信機器関連業界への積極的な拡販により堅調に推移しました。ロッドエンドベアリングは、米国・欧州を中心に航空・宇宙産業向けに売上が増加しました。また、ピボットアッセンブリーは、HDD業界の需要が好調に推移し大きく売上が伸びました。これらの結果、売上高は62,204百万円と前中間連結会計期間に比べ4,854百万円(8.5%)の増収となりました。営業利益は、材料費高騰の影響もありましたが、増産・生産効率向上によるコスト削減等により11,112百万円となり、前中間連結会計期間に比べ634百万円(6.1%)の増益となりました。

電子機器事業

電子機器事業は、HDD用スピンドルモーター、ファンモーター・ステッピングモーター・振動モーター及びブラシ付DCモーターの情報モーター、PC用キーボード、スピーカー、液晶用バックライト並びに計測機器が主な製品であります。液晶用バックライト、ファンモーター及びキーボードが携帯電話、オフィスオートメーション、PC及び周辺機器向けに大きく売上が伸びました。これらの結果、売上高は93,535百万円と前中間連結会計期間に比べ4,135百万円(4.6%)の増収となりました。営業損

失は、液晶用バックライトの売上増による増益、HDD用スピンドルモーターのコスト削減等の効果があり、3,887百万円と前中間連結会計期間に比べ1,123百万円の改善となりました。

所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

日本地域

日本地域は、売上高39,241百万円と前中間連結会計期間に比べ990百万円(2.6%)の増収となりましたが、情報モーター事業が構造改革中のこともあり営業損失754百万円と906百万円の減益となりました。

アジア地域

アジア地域は、旺盛な投資等により高成長を続けている中華圏を含み、多くの日本、欧米等のメーカーの生産拠点として重要な地域であります。売上は、情報通信機器関連業界の需要拡大や堅調な家電業界の需要に支えられ、中華圏を中心に堅調に推移しました。利益面では、ピボットアッセンブリー等のメカニカルパーツの値上げ及びコスト削減、HDD用スピンドルモーターのコスト削減対策及び情報モーター部門の事業構造改革進展等により収益改善効果があらわれてきています。この結果、売上高は75,334百万円と前中間連結会計期間に比べ6,419百万円(9.3%)の増収となり、営業利益は5,729百万円と2,893百万円(102.0%)の増益となりました。

北米地域

北米地域は、情報通信機器関連顧客のアジアへの生産移管が進んだものの、キーボードその他の電子機器部品は堅調に推移しました。また、米国生産のボールベアリング及び航空機関連業界等向けのロッドエンドベアリングは、受注・販売共に好調に推移しました。この結果、売上高は28,803百万円と前中間連結会計期間に比べ2,879百万円(11.1%)の増収となりましたが、営業利益は1,515百万円と一部製品の輸入仕入価格変更もあり769百万円(33.7%)の減益となりました。

欧州地域

欧州地域は、緩やかな経済成長の中で、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移しましたが、米国系顧客向けキーボードビジネスを北米地域へ移転したため、売上高は12,360百万円と前中間連結会計期間に比べ1,299百万円(9.5%)の減収となりました。しかし、営業利益は734百万円と539百万円(276.4%)の増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループは、「財務体質の強化」を主要な経営方針とし、総資産の圧縮、設備投資の抑制及び負債の削減等を進めております。当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は27,134百万円と、前中間連結会計期間末に比べ6,046百万円(28.7%)増加しました。

当中間連結会計期間の各活動におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

税金等調整前中間純利益4,425百万円及び減価償却費11,688百万円の発生に対し、売上債権・たな卸資産の増加、法人税等の支払い等による支出があった結果、営業活動によるキャッシュ・フローは12,931百万円の収入となり、前中間連結会計期間に比べ128百万円(1.0%)の減少となりました。設備投資の支払いは10,556百万円と前中間連結会計期間に比べ減少し、投資活動によるキャッシュ・フローは9,526百万円の支出と前中間連結会計期間に比べ548百万円(5.4%)の支出の減少となりました。また、短期借入金4,315百万円の増加、配当金2,793百万円の支払い等により、財務活動によるキャッシュ・フローは1,572百万円の収入となり前中間連結会計期間に比べ10,307百万円の収入の増加となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	66,725	116.2
電子機器	89,034	100.8
合計	155,759	106.8

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(2) 受注状況

当中間連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年 同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年 同期比 (%)
機械加工品	67,067	113.7	43,420	119.5
電子機器	92,698	98.7	21,709	80.4
合計	159,765	104.5	65,129	102.8

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	62,204	108.5
電子機器	93,535	104.6
合計	155,739	106.1

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループは、各種ボールベアリング及びその応用部品に代表される精密機械部品、ロッドエンドベアリング、高級ファスナーを始めとする航空機部品、また最先端の電子機器に使用される各種電子部品等の製造及び販売を行っており、それぞれの分野での研究開発は、当社及び世界に展開するグループ各社の技術部門間で相互に密接な連絡を取り効果的に進められております。

また、当社グループは軽井沢工場、浜松工場、タイ、シンガポール、中国、米国及び欧州の各拠点にR&Dセンターを有しております。

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費は4,464百万円であり、この中にはタイ、シンガポール及び中国のR&Dセンターで行っている各種基礎材料の解析等、事業別に配分できない基礎研究費用103百万円が含まれております。

当中間連結会計期間における事業の種類別セグメントの研究開発活動は、次のとおりであります。

機械加工品事業

当社の主力製品であるボールベアリングにおいては、情報関連機器、家電製品、自動車及び医療機器等、多岐にわたるお客様の用途に最適な製品開発を、日本、米国及びドイツにて実施しております。

情報関連機器のうち複写機、プリンターは、静電気除去の効率が画質性能を左右する重要な要素となっております。今回開発しましたボールベアリング用導電性グリースは、電荷が内輪・ボール・外輪間を長期間安定して通ることができ、従来の4倍まで導電性能を維持することができます。

航空機向けロッドエンド及びスフェリカルベアリングの開発においては、フライト中に起こりうる様々な過酷な条件をシミュレートした試験により、高い信頼性を確保しております。エアバスA320においても、主翼スラットに使用されるレバーピニオンベアリングの低トルク化を計り認定を取得しました。

タイ及び上海R&Dセンターでは製品安全の一環として鉛、カドミ及び六価クロム等の有害物分析を実施しておりますが、お客様により一層信頼される製品の提供を目的として、それぞれタイ国産業省及び中国実験室国家認可委員会の認定取得の為に準備を進めております。

当事業にかかる研究開発費は898百万円であります。

電子機器事業

技術本部オプトデバイス開発部門では、主にモーター用希土類成型マグネットやディスプレイ関連製品の材料技術・要素技術・製品技術について研究開発を行っております。

モーター用希土類成型マグネットについては、社内のモーター開発部門と共同で、高精度、高信頼性及び低価格のマグネットについて開発しております。

ディスプレイ関連製品では、主にモバイル液晶用LED(Light Emitting Diode)バックライトユニット、中型液晶用LEDバックライトユニット及びデータプロジェクター用光学部品の開発を行っております。特にモバイル用に適した新LEDバックライトをLEDメーカーと共同開発し、10月から量産開始しました。

これらの電子部品を開発していくため、当社の特徴である超精密加工技術、金型技術及び精密樹脂成形技術に加え、CAD/CAE設計技術、光学設計技術、薄膜成形技術、フォトリソグラフィ技術等を組み合わせ、次世代モバイル液晶用バックライトユニット、中大型液晶用バックライトユニット、プロジェクター

用光学部品及びLEDモジュール等FPD(Flat Panel Display)用光学部品の開発を進めております。

技術本部エレクトロニクス開発部門では、現在、ディスプレイ機器用ランプ駆動電子回路を中心に開発を行っております。

具体的な開発製品としては、大型液晶テレビのバックライトとして用いられているCCFLランプ(冷陰極ランプ)駆動用インバーター、フロント及びリアプロジェクターの光源として用いられる高圧水銀ランプ点灯用バラスト電源の開発を行っております。特にインバーターを用いる大型液晶テレビ市場は急拡大しており、インバーターとしてもより高性能、低価格が望まれています。当部門では、既存のインバーター回路方式とは全く異なる高性能、低価格対応の独自インバーター回路方式の開発に成功しており、現在、本回路を用いたインバーターの事業部移管を進めております。また、さらなる低価格対応回路の開発を現在進めております。

特機事業部では、高信頼性回転センサーであるレゾルバの発展形とその信号処理ソフトの研究開発を行っております。また、高効率ブラシレスDCモーター応用製品の開発を行っております。

当事業にかかる研究開発費は3,463百万円であります。